



2022-23 年度  
国際ロータリー会長  
ジェニファー・ジョーンズ

# Weekly Report Niigata



2022～23 年度  
新潟ロータリークラブ会長

石川 治彦

新潟 RC 3 月第 1 例会 (2023.3.7) (Zoom 例会併催) No.3450

(1) 「君が代」

ロータリーソング「奉仕の理想」ピアノ演奏

(2) 石川 治彦会長挨拶

先日は明治の庭園の中から種治の小川治兵衛の話でしたが、本日はより現代に近くなります。昭和の初期に活躍した重森三玲をご紹介しますと思います。

最初に重森三玲は作庭家である前にアーティストでありました、同時に、日本庭園の学者でもあり、小林 悟さんから重森三玲の著作した日本庭園歴史 (れきかん) 辞典など頂いたのですが、いけばなや茶道にも造詣が深く、多くの著作を残した執筆家でもありました。さまざまな分野に精通していたので、異なる文化や芸術が“つながっている”ことを感じていたのかもしれません。

その重森三玲の庭そして造形に対する考え方の一つが、普遍的な美を尊びつつ、そこから一歩ふみ出すといったスタイルです。

その斬新なデザインと哲学で「永遠のモダニズム」と称されるのが重森三玲の、初期の作品であり、代表作ともいえるのが、東福寺の「本坊庭園」です。

抽象的な造形で宇宙観をも表現する名庭は、作庭家・重森三玲によって 1939 年 (昭和 14) 年に完成された。本坊庭園は、僧侶の住居である方丈を中心に、東西南北に四つの庭が配された珍しい造りになっています。

四つの庭で「八相成道 (釈迦の生涯における八つの重要な出来事)」を表現しており、一つひとつが独立した芸術性を持ちながらも、全体を通してストーリーが繋がる構成になっています。

その一つの本坊庭園の東庭は、小さな空間に配された七つの円柱型の石が、見覚えのある「ひしゃく」の形に並んでいて、この石が表現しているのは「北斗七星」です。

日本庭園史上はじめて、星座を表現したのがこの東庭です。星を表す円柱型の石は、もともと東福寺にあったものでそれを解体した際の廃材を使用したもので、三玲がこの庭を設計するとき東福寺から出された唯一の条件が、「本坊内にあった材料は、すべて破棄することなく再

利用すること」との条件であったことによります。

「一切の無駄をしてはならない」という禅の思想に基づいたこの制約が、より一層三玲の作庭に魅力を与えたのかもしれない。

その先に目に入ってくるのが南庭です。東からのぼる星座の庭が「静」を表しているなら、その向かいにある「南庭」は対照的な「動」のデザインです。石組みや築山など枯山水の基本を踏まえつつも、随所に斬新な試みがなされています。それでいながら日本庭園の定型的な「蓬莱神仙」の世界を表現しています。

さまざまな石を大胆に配置して、仙人の住む四神仙島を表し、石組みの中には、6m もの巨石を横に置くなどのこれまでに見られない手法が用いられています。

奥に連なる五つの苔山は京都五山を、砂紋は海を表していて、斜線上に設けられた、築山と白川砂が次の「西庭」へとつながります。

続いて、西庭は大胆な市松模様が目に入ってきます。奥には三尊の石組みがあり、東の北斗七星、南の五山と合わせて吉祥の数字「七五三」を示唆しています。

「西庭」では、サツキの刈り込みとカズラ石によって表現された大きな市松模様を目を奪われます。この意匠も、これまでの桂離宮などの襖で用いられてきた市松模様がテーマデザインです。

ここでは境内内にある廃材である敷石を再利用して作られたもので、日本の伝統模様である「市松」を大胆に採用し庭園に用いました。ここでも、斜線上に配された市松模様が次の北庭のデザインにつながっていきます。作庭当初はこのカズラ石から 3 cm しか五月の高さはなく平面的な意匠でした。このあたりも時間と共に変化した部分です。

北庭の市松模様。模様がくずれ、苔の面積が増えてゆくグラデーションに見とれます

「北庭」では、西庭から受け継いだ市松模様がさらに細かくなり、徐々に東北方向の谷へと消えていくという形が展開されています。

計画段階ではここまでは白砂でここから苔と区別していましたが、また以前の状態はここまで苔は繁茂しておらずすっきりしていますが、80年経ってかなり苔が繁茂して現在の姿になっています。しかし作庭時点でこのような変化を予想して計画していたのかもしれませんが。

再利用した切り石と苔で表現された市松模様は庭を進んでいくにつれて徐々にくずれ、石はぼつり、ぼつりと一石ずつ苔の中に姿を消してゆきます。

「一切の無駄をしてはならない」という禅の教えを守りながら、庭のデザインを考えた重森三玲、昭和を代表する庭園の作者として非常に興味深い存在です。次週も重森三玲の庭の紹介をさせていただければと思います。これで会長挨拶を終わります。

(3) 100%出席バッチ贈呈(河野泰之出席委員)

小川 潤也君	1年	本多 晃君	6年
吉田 和弘君	6年	小飯田澄雄君	13年
山田 隆一君	28年	徳永 哲史君	39年
本間 彊君	44年		

(4) 誕生日お祝い贈呈(9名)

(5) 結婚記念日お祝いの紹介(10名)

(6) ロータリーの友誌ご紹介(小山章司広報会報雑誌委員)

(7) 東海幸一職業奉仕委員長 2/23 公開講演会報告(4ページ目に記載)

(8) 地区役員委嘱状伝達(敬称略)

地区諮問委員 危機管理委員長 会員増強・戦略・広報委員長 石本隆太郎

地区研修準備委員会委員 山田隆一

広報・公共イメージ向上委員会 委員長 小木將綱

広報・公共イメージ向上委員会 委員 佐藤明

広報・公共イメージ向上委員会 委員 川瀬直也

広報・公共イメージ向上委員会 委員 佐藤隆夫

広報・公共イメージ向上委員会 委員 酒井昌彦

広報・公共イメージ向上委員会 委員 小山章司

広報・公共イメージ向上委員会 委員 栗原美樹

国際奉仕委員会 委員長 徳永 昭輝

ロータリー財団委員会 奨学金・学友会・VIT委員会 委員 本多 晃

米山奨学委員会奨学生選考委員会委員 織戸 潔

(9) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(田中孝佳委員長)

白勢 仁士君

(10) ニコニコボックス紹介(関川 博信委員長)

・石橋 正利君 新発田中央ロータリークラブで卓話をしてきました。テーマは「職業奉仕こそ、究極の幸せ」です。「改めて職業奉仕の大切さを考えるきっかけになりました」と言っていました。ニコニコします。

(11) 幹事報告(高野 潤幹事)

・ロータリーレートが1ドル136円に変更になりました。

・友好クラブである前橋ロータリークラブとのゴルフ・野球親善大会の日程が決まり、それぞれの同好会シーズンインに備え、打合せを兼ねた合同懇親会を、下記のとおり開催いたします。同好会メンバー以外の方も奮ってご参加下さい。

・日 時 3月20日 月曜日 18時より  
・会 場 ホテル イタリア軒 2階ローザ  
・会 費 7,000円  
・その他 前橋ロータリークラブとの試合日程  
5月13日(土) 親善ゴルフ大会  
14日(日) 野球親善試合

出欠の返信は3月15日までに野球同好会高野幹事へメールでお願いいたします。

メールアドレス [takano@italiaken.com](mailto:takano@italiaken.com)

(12) 3月7日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
88	85	61	71.76

Zoom参加 13名

3月7日 理事会報告 出席者 名

1 IM登録料 地区協議会登録料 について⇒承認

IM登録料は例年10,000円で、半額の個人負担であったが、今回値上がりにて12,000円の為、個人負担は半額の6,000円、例年通り、地区協議会登録料は13,000円の内、5,000円を個人負担

2 トルコ・シリア地震支援金について⇒以下確認後、承認

会員から集めた募金が確実に現地に届くかを明確にする為、具体的に何処に、支援金が送られるかを地区に確認した後に、例会時会員に募金をお願いする

3 退会届について⇒承認

・第一生命保険(株)新潟支社 支社長 金井和義君

4 入会推薦の件⇒承認

(株)JTB新潟支店長 馬場 亮(あきら)君 推薦者 石川 治孝君 小林 慶直君

5 3月のプログラム⇒承認

3月 7日 第一例会につき卓話なし

3月14日 「アクト活動における学びと“可能性”」

新潟ローターアクトクラブ 副会長 高橋 優太さん 会計 古俣 里夏さん

3月21日 祭日

3月28日 会員スピーチ 日本銀行新潟支店支店長 小林 俊君

6 その他

・前橋RC合同観桜会4月4日ロイヤルチェスター前橋 午後5時半開会日時を含め実施内容について再案内

・今後の例会の持ち方について⇒承認

3月、4月は現状通り、スクール形式(アクリル板)、リモート開催併用にて実施

・桑原理事より、2/23実施の職業奉仕委員会主催講演会について

本日の例会にて、東海職業奉仕委員長より講演会について報告

・ミャンマー・サンピア病院支援について

徳永理事より、先月の例会にて募金をお願いしたが、ミャンマーのヤデナ医師から、新潟大学の渡辺先生から「新潟RCの支援金」を頂いたとの連絡があり、感謝の言葉と「サンピア病院で必要な薬」に利用し、後日寄贈の内容等については、連絡を入れるとの事。内容が確認できた段階で改めて報告致します。

次回3月14日は ローターアクト週間に因み「アクト活動における学びと“可能性”」と題し  
新潟ローターアクトクラブ 副会長 高橋 優太さん 会計 古俣 里夏さんにお話頂きます。

新潟ロータークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

## 2023年2月23日開催 職業奉仕委員会主催「講演会」報告

新潟ロータリークラブ 職業奉仕委員長 東海 幸一

開催日時 2023年2月23日（木・祝）イタリア軒3階サンマルコ

講師 リハブ土田 院長 土田 昌一（つちだ しょういち）氏

第一部14:30～15:20 講演 演題「自分を納得させる医療を求めて」

第二部15:30～16:30 AKA療法体験

今年度の職業奉仕委員会活動の第3弾として、「職業を通じての社会奉仕」を実践している方を講師とした「講演会」を開催しました。

冒頭、職業奉仕担当理事の栗原さんに、今回の講師、リハブ土田 院長 土田 昌一先生をご紹介して頂きました。栗原さんは、以前より土田先生の東京・目黒のクリニックで治療を受けておられ、先日、交通事故に遭われ首を痛めた時も足を運ばれたとのことでした。

第一部の講演は、新潟南 RC 会員、一般の方を含め 24 名に参加頂きました。

土田先生は、AKA 療法と出会い、現在のクリニックを開業するに至るまでの期間を「モラトリアム」と表現され、先生の大学時代から、虎の門病院での外科、脳神経外科医師時代、リハビリテーション専門医として老人医療・在宅医療を経て、ご自分が納得いく医療を求めて、常に模索されてきた経緯はとても興味深いお話しでした。

また、患者さんとの会話を大切に、病名だけでなく不自由さを丁寧に説明することが医師の仕事であり、「リハブ土田」では、心身に支障を持ちながらも患者さん自身が、自分らしく人生を再構築していくためのきっかけを与えていきたいと、話されました。

AKA（関節運動学アプローチ）とは、「関節の遊び、関節面の滑り、回転、回旋などの関節包内運動の異常を治療し、関節面の滑りを誘導する方法」で、「リハブ土田」では 60%程度が 1～4 週間間隔の治療で完治、30%程度の方が 1 年程度以内で痛みが出にくくなるとのことでした。通常の鎮痛剤が効かない方は、活性酸素が原因の可能性があり、その対策を実施しながら治療していくとのことでした。

第二部は、土田先生と、応援でお越し頂いた片岡先生、橋本先生の 3 名の先生による AKA 療法体験で、講演出席者の内 15 名の方に参加頂きました。

先生方は皆さん気さくな方で、リラックスした雰囲気でお話をしながら、気になる部分についてヒアリングされた後、診療台に横になっての治療になります。触るか触らないかの力で関節の動きを感じとる、とても繊細な行為で、治療後のアンケートでは「痛みが改善された」「胸が広がる感じがして姿勢が良くなった」「歩き方が自然になった」など、多くの方が 1 回の体験で効果を実感されたようです。

遠方よりお越しいただいた 3 名の先生方、開催にあたりご協力いただいた、RC 事務局、石川会長、高野幹事、栗原理事、ご参加いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



